

日本国際経済学会 第14回春季大会（2025年6月14日 於：西南学院大学）企画セッション

「西洋の没落」と日本の役割：  
3つの波の反転と新テクノロジーの興隆の行くえ  
“The decline of the West” and Japan's role:  
The reversal of three waves and the rise of new technologies

古川純子（聖心女子大学）

報告要旨

グローバリゼーションの減衰のように見える現象は、新自由主義が信認を失っていることを意味し、「小さな政府」から「大きな政府」への40年周期の経済政策思想の転換が、2010年頃から起きている。同時に現在は、ここまで約100年で交代してきたヘゲモニーの終焉期でもある。新自由主義は格差を広げ、アメリカの分断は收拾がつかない社会的断層を生んでいるが、この溝を埋めるために必要な中産階級を再興させる生産構造はアメリカにとってすでに過去のものである。アメリカ経済は産業の高度化を進め、すでに金融化の発展段階にあることに加えて、産業革命から250年にわたって資本主義経済を支えた化石燃料と製造業を付加価値の源泉とする生産様式が、新テクノロジーの影響を強く受けた付加価値の創造へと移行する転換期が重なっているためである。ICTとAIを基盤とする知識経済における生産様式は、コストの削減と効率化を進めるため中間層の雇用を生みにくい。トランプの実験は、それでも製造業復活を志向する必要があるアメリカの追い詰められた現状を反映している。ここに欧州での制度疲労と混乱、アメリカの国際秩序からの撤退が重なると、800年前に十字軍から始まった「西洋の世紀」の衰退がいよいよ顕在化していくことになる。

3つの波の同時減退と新テクノロジーの台頭という現状の見方にもし妥当性があるとすると、次に出現する現象は、それぞれの波の反転である。具体的には、財源なき政府介入の増大、アメリカ後のヘゲモニーなき新国際秩序、「東洋の世紀」の緩やかな立ち上がり、ICTとAIが基盤となる世界である。

歴史を振り返ると、日本はヘゲモニーが許した時のみ経済成長を果たすことができた。日本はバブル崩壊後「失われた35年」を漂ってきたが、軍事と経済の両面でチャレンジを宣言した中国に対峙するアメリカは、いま真剣に日本を必要としている。日本には史上3度目のチャンスが訪れている。

新しい国際秩序に向かう世界で、日本が果たす役割とは何か。それは単なる経済復興なのか。止められない人口減少の中で、日本自身の夢とは何か。その政策は、投資は、日本人のマインドセットは、新しい世界に貢献する意思を整えているか。本発表では、世界での日本の立ち位置と、日本が世界に貢献していく要素について考える。